

# 石川・三小牛ハバ遺跡

みつこうじ

1 所在地 石川県金沢市三小牛町七字一外

2 調査期間 一九八七年(昭62)四月～十二月

3 発掘機関 金沢市教育委員会

4 調査担当者 南 久和・楠 正勝

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代前期

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

三小牛ハバ遺跡は尾根に囲まれた平坦地に立地し、標高は一五〇～一七〇m、二面は堀に、他の二面は急な崖に面している。周辺には縄文、奈良、平安時代の遺跡である三小牛さこ山C遺跡があり、ほかにも数カ所で平安時代の遺物が採集されている。遺跡付近では一九五一年に板仏が採集され、一九八七年になって奈良時代後半の銅板鋳出仏と鑑定されている。



(金 沢)

一九八五年、産業廃棄物処分場の建設計画のため分布調査が行われ、その結果三次にわたる本格的な発掘調査を行った。

一九八六年秋から翌年春にかけての第一次調査では、堀尻から墨書土器・彩釉陶器片・布目瓦・転用硯が出土したが、平坦地に設定した十字トレンチからは遺構・遺物とも見るべきものは検出されなかった。

第二次調査では、堅穴住居跡四棟と、「コ」の字型に配置された掘立柱建物八～九棟、及び堀切りを検出した。

木簡はL字形の堀のコーナー部分から三点出土している。伴出遺物には、多数の須恵器(杯・盤・甕・壺・水瓶、浄瓶・鉄鉢形土器・合子・灯明皿・転用灯明皿・転用硯、土師器(未整理)、木器(曲物・下駄・漆塗り盤・盤・高台付碗・盆状木製品・火きり臼・杵・写経用定規・杭他)のほか奈良三彩や墨書土器が出土した。墨書土器は、「三千」または「三千寺」(約一〇点)、「厶(則天文字の一。「ひと」と読む)」「二点」、「太縄」「気成」「佐木」「厨」「沙弥」「弥」「沙弥古万呂」「広」(以上各一点)の文字が認められた。その後、一九八八年末に第三次調査が行われたが、遺構・遺物とも見るべきものはない。

本遺跡はごく少量の縄文時代・中世の遺物を除くと、奈良時代から平安時代前期に及ぶ土器の出土が多く、奈良時代後半をピークとした遺跡であると言える。また銅板鋳出仏の出土、「三千」、「三千寺」の墨書土器や、「寺」と墨書された木簡の出土、仏教と関係の

深い水瓶・浄瓶・鉄鉢形土器・合子等の出土、写経用定規の出土、日常生活にはあまり縁のない彩釉陶器の出土、「コ」の字型に配慮された掘立柱建物の検出を見たことなどにより、ハバ遺跡は当時「三千寺」と呼ばれた寺院の跡と考えられる。

立地条件の特異性は、今後究明すべき課題である。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) ・「コ」有

・「コ」道 道

(109) × 39 × 4 039

(2) □ 山 山 寺 □

(185) × 35 × 2 081

(3) □ 子 子 子 子 子 問 家 □

(158) × 26 × 14 061

(1)(2)は習書木簡で、(3)は写経用定規に墨書したものである。

なお、木簡の釈読は、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示による。

## 9 参考文献

金沢市教育委員会・毎田建設株式会社『金沢市三小牛ハバ遺跡調査概報』(一九八八年)

(南 久和)

## 木簡研究 第八号

巻頭言——最後まで残る仕事——

青木和夫

一九八五年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京左京三条六坊七坪 平城京右京七条一坊十五坪 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 平安京左京三条三坊十一町 平安京左京六条一坊八町 平安京左京九条三坊十四町 平安京右京八条二坊二町 平安京右京八条二坊五町 鳥羽離宮跡 伏見城跡 西ノ辻遺跡 観音寺遺跡 大銅堂廃寺 穂積遺跡 玉津田中遺跡 辻井遺跡 長尾沖田遺跡 但馬国府推定地 朝日西遺跡 大淵遺跡 沓掛城跡 勝間田城跡 神明原・元宮川遺跡 今小路周辺遺跡 鶴岡八幡宮境内研修道場用地遺跡 鹿島湖岸北部条里遺跡 西河原森ノ内遺跡 勸学院遺跡 金剛寺城跡 柿堂遺跡 法界寺跡 今泉城跡 富沢水田遺跡 中尊寺伝三重池跡 胆沢城跡 浪岡城跡 俵田遺跡 秋田城跡 九十九橋 一乗谷朝倉氏遺跡 三木だもん遺跡 弓庄城跡 番場遺跡 小島西遺跡 富田城跡 草戸千軒町遺跡 尾道遺跡 備後国府跡 秋月遺跡 大宰府跡 大宰府条坊跡 豊前国府跡 如法寺遺跡

一九七七年以前出土の木簡(八)

平城宮跡(第一次・第二次・第五次・第四次・第四次・第四次)

唐招提寺講堂地下遺構

中国簡牘研究的新動向

倉札・札家考

柚井遺跡出土木簡の再検討

出土の文字資料からみた中世民衆生活の一面

——草戸千軒町遺跡を中心に——

彙報

頒価 三八〇〇円 千四〇〇円

李 学 勤

沢・菅谷文則

原 秀三郎

榮原永遠男

志田原重人